

2月17日（火）

地域の方と一緒に考える道徳授業

6年生が道徳の学習で、地域の皆さんと一緒に「杉原千畝さんのとった行動」について考えました。

杉原千畝さんは、第二次世界大戦下の1940年、外交官として勤務していたリトアニアで、迫害されていた多くのユダヤ人を救うため、母国である日本政府が反対する中でもビザの発給を続けた人物です。自らの立場や将来を失うかもしれない状況でありながら、「かけがえのない人の命」を何より大切にした判断でした。

授業では、子どもたちが「自分ならどうするか」「どのような理由で判断するか」を考え、地域の方々と意見を交わしながら学びを深めました。



地域の大人の方からは、「周りの人や国への影響を考えると、自分の思いだけでは行動できない」「やっぱり勇気が出ないと思う」「当時の日本では、政府に逆らうことなんて考えられなかっただろう」など、子どもたちが普段思い至らない視点や、自身の弱さを率直に語っていただきました。

子どもたちは、大人の意見に耳を傾けながら、物事を多面的・多角的にとらえる大切さを実感していました。地域の皆さまとの対話を通して、道徳の学びがより深く、豊かなものとなりました。しっかり自分の生活の中で学びを生かしてほしいと思います。



